

## 幼児が食べる喜びや楽しさを味わうための環境構成と援助の工夫 ～身近な食べ物への興味や関心を高めることを通して～

渡嘉敷村立渡嘉敷幼稚園教諭 崎濱貴子

### I テーマ設定の理由

近年、幼児を取り巻く食生活に関する課題として、朝食欠食、こ食、偏食、肥満、咀嚼力の低下や生活習慣病の低年齢化などが挙げられ、子どもたちの健康を取り巻く問題が深刻化している。生涯にわたって健康な生活を送るためには、バランスのとれた食生活は欠かせないものである。現代では欲しい食べ物は何でも手に入る。食事の支度に時間をかけなくても、温めるだけ、あるいはそのまま食べられるレトルト食品や惣菜も豊富である。河辺(2009)は「味覚は3歳までに決まると言われているが幼児期に調味料の味に慣れてしまうと大人になっても濃い味を好むようになる。食べ物本来の味や、素材の味を経験し、楽しい美味しいと感じ食する感覚は幼児期に培うものだ」と述べている。

幼稚園教育要領解説「健康」の領域、内容の取扱い(4)では「幼児期には、食べる喜びや楽しさ、食べ物への興味や関心を通じて自ら進んで食べようとする気持ちが育つようにすることが大切である」と示されている。また食を通じた子どもの健全育成のあり方に関する検討会報告書によると「幼児期には、活動範囲が少しずつ広がり、好奇心も強くなってくるので食への興味や関心がもてるように、食べる意欲を大切に、食への体験を広げることが大切である。」と述べている。

本園は週1回学校給食を実施し、預かり保育を利用する幼児は週4日、弁当持参となっている。弁当は家庭の味で子どもの好きな食材が入っているので喜んで食べる姿が見られるが苦手な野菜は残すことがある。学校給食で、身近な島の食材を使った給食を提供しているが、馴染みのない食材が出ると「家で食べたことがない」と食べたがらない幼児もいる。

これまでの私自身の保育を振り返ってみると、教師主導で野菜を栽培し、収穫をしたら教師が調理して幼児に食べさせてきた。苦手食材に挑戦させ、食べる事ができたら褒め、徐々に食べられるようにしてきたが食べ物自体への興味関心を持たせるような取組みは十分ではなかった。また、自然豊かな地元食材が近くにあるが保育の中で活用することはなかった。

そこで園生活の中で、幼児を主体とした栽培活動の充実を図り、幼児が自分で種を蒔き育てる体験、収穫して調理する体験をすることで、野菜に親しみや愛着を感じ、「みんなと一緒に作ると楽しい」「おいしそうだ」「食べてみたい」という意欲を育みたい。また、地域の人と一緒にになって身近な食材に触れたり、収穫や調理をしたりすることで食べ物への興味や関心を持たせ、食べる喜びや楽しさを味わわせるための環境構成と援助の工夫を探りたいと考え本テーマを設定した。

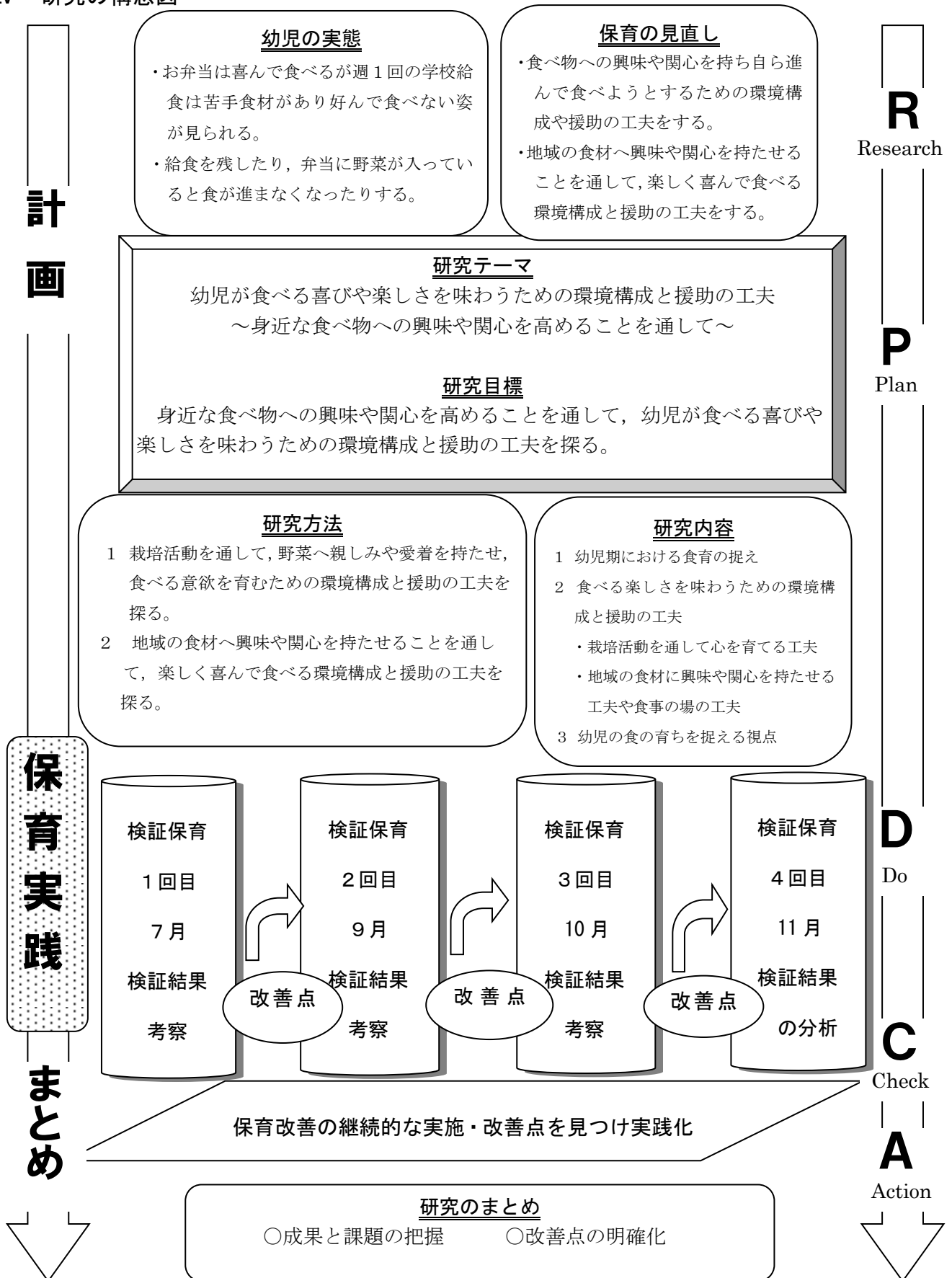
### II 研究目標

身近な食べ物への興味や関心を高めることを通して、幼児が食べる喜びや楽しさを味わうための環境構成と援助の工夫を探る。

### III 研究の方法

- 1 栽培活動を通して、野菜に親しみや愛着を持たせ、食べる意欲を育むための環境構成と援助の工夫を探る。
- 2 地域の食材へ興味や関心を持たせることを通して、楽しく喜んで食べる環境構成と援助の工夫を探る。

IV 研究の構想図



## V 研究内容

### 1 幼児期における食育の捉え

食育基本法に「食育とは生きる上での基本であって知育、徳育及び体育の基礎となるべきもの、様々な経験を通じて『食』に関する知識と『食』を選択する力を習得し健全な食生活を実践することができる人間を育てること。」と示されている。

保育指針によると幼児期の食育の目標は「楽しく食べる子ども」とある。①お腹がすくりズムの持てる子ども②食べたいもの好きなものが増える子ども③一緒に食べたい人がいる子ども④食事づくりや準備にかかわる子ども⑤食べ物を話題にする子どもがある。これらの食育における5つの子どもの姿はそれぞれに独立したものでなく、互いに影響し合いながら、統合されて一人の子どもとして成長していくことを目標としていることから園生活の中で総合的に保育の中で実践する。

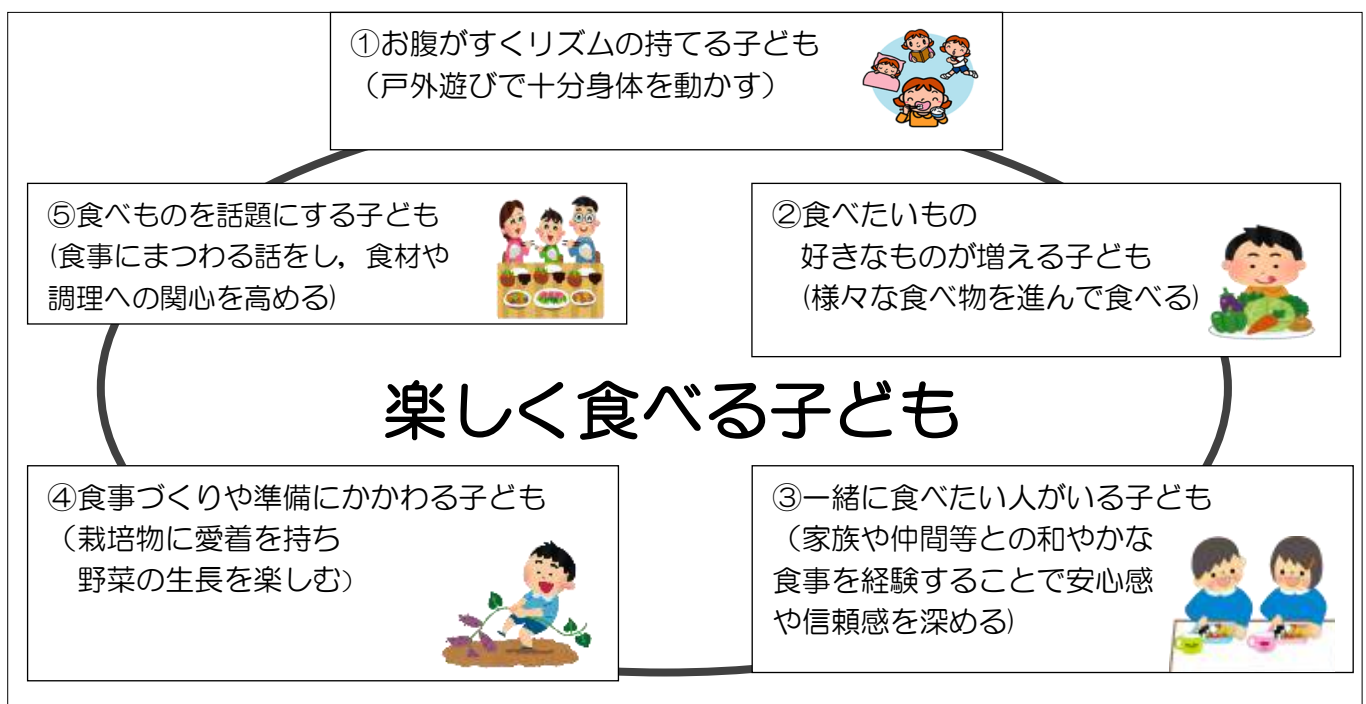


図1「楽しく食べる子ども」に成長するための5つの目標 保育指針より

### 2 食べる楽しさを味わうための環境構成と援助の工夫

幼児が食べる楽しさを味わうために、園での栽培活動の工夫と、渡嘉敷島の地域食材を活用した身近な食べ物に興味や関心を持たせていくための工夫及び食事の場の工夫を行っていく。

#### (1) 栽培活動を通して心を育てる工夫

幼稚園教育要領の健康の領域によると「栽培活動で野菜などを育てる中で、親しみを感じ、日ごろ口にしようとしなくてもおいしそうだと感じたりする。教師と共に簡単な料理をしたり、教師の手伝いをする事により、その食べ物を食べたいと思うこともある。」と示されている。櫃本(2016)は「栽培活動に取り組む中で日々生長・変化していく植物を見て不思議さや実がなる喜びや感動、あるいはせっかく育てた植物が虫に食べられる悲しさ、自分で責任を持って育てる、友だちと協力するなど体験や遊びを通して様々なことを感じていく」と述べている。幼児は小さな種や苗から、いつも口にしていた野菜が育つことの実感し、自分たちの手で育てた野菜に愛着を持ち、下記のような心が育つと考える。

- ① 野菜の特徴(色・形・香り・開花・実の付き方など)を知ることによって興味関心が高まり食べてみたいと思う心
- ② 野菜の生長を通して、不思議に思ったり驚いたりする心

- ③ 生きている野菜の生命力に触れることにより、野菜を大切にしようとする心
- ④ 野菜の世話を通して、親しみや愛着がわき生長の喜びを味わう心
- ⑤ 収穫の喜びを味わい、調理を体験することを通し、食べる喜びを味わう心

栽培体験をすることで感謝して食べることや野菜そのものへの興味関心につながり食べてみたいものが増え、進んで食べようとすることに繋がると考える。

## (2) 地域の食材に興味や関心を持たせる工夫

渡嘉敷島で身近な食材としてシークワサーと島米がある。シークワサーは島の至る所にあり、幼児はジュースにして飲んだことはあるが、自分で直接もいで食べる経験は少ないため幼稚園において収穫体験・調理体験を通して興味を持たせる。また、島米の栽培は二期作で盛んに行われているが、幼児は直接関わることがなかったため地域の人と共に稲刈り体験や調理体験を行い島米に興味や関心を持たせる。

## (3) 食事の場の工夫

柴崎(2005)によると、「食べる楽しさは、食事の場の雰囲気や周囲の風景、さらには一緒に食べる人やそこでの会話によって大きく影響を受ける」とある。幼稚園では、食事をする場所の雰囲気作りの工夫として、保育室で食べているお弁当を天気の良い日には、園庭や戸外で頂き自然を感じながら食べる楽しさを感じたり、テーブルクロスを敷き、花を飾りレストラン風の雰囲気を楽しんだりしながら、食べる楽しさを実現するための環境構成や援助の工夫をする。

## 3 幼児の食の育ちを捉える視点

師岡(2009)は、「食育を具体的に展開する上で、保育の内容に食育の視点を盛り込むよう努めることが必要」と述べている。食育と保育とは別に設定するのではなく、園生活全体の中で多様な経験を通し保育の一環として位置づけて取り組むことが大切であると考え。広木(2006)が「幼児期は五感と身体を育てる時代である」と述べていることから、園生活全体の中で多様な経験を通して図られる食の育ちを捉えていく窓口として食育の5項目を次のように取り組むこととする。

表1 園生活の中での食の育ちと本園の取り組み

項	食育の5項目	渡嘉敷幼稚園の取り組み
1	「食と健康」 健康な心と体を育て、自らが健康で安全な生活を作り出す力を養う	友達と楽しく遊ぶ経験を積み重ね、思いきり身体を動かすことでお腹がすく
2	「食と人間関係」 食を通じて、他の人々と親しみ支え合うために、自立心を育て、人と関わる力を養う	地域の人と一緒に身近な食材の収穫や調理体験を行う
3	「食と文化」 ・食を通じて、人々が築き、継承してきた様々な文化を理解し、つくり出す力を養う ・住んでいる所への愛着を養う	島の漁業協同組合や地域など地域の人と一緒に活動し食材への興味や関心を高めていく
4	「いのちの育ちと食」 食を通じて、自らも含めたすべてのいのちを大切にする力を養う	地域の野菜や果物を食する体験を通して「いのち」を頂く機会を作る
5	「料理と食」 食を通じて、素材に目を向け、素材に関わり、調理することに関心を持つ力を養う	園で栽培物の世話をすることで生長していく野菜等に興味や関心、愛着を持ち、先生や友達と楽しく調理体験をする



## VI 研究の実際

### 1 検証保育（1回目 5月～7月）

#### 「栽培活動を通して ～畑で栽培したオクラを食べてみよう～」

##### (1) 設定理由





幼児と共に園の畑にオクラの種まきをし、水やり、雑草抜きなどの世話をして生長の様子を見ることにした。オクラは生長が早く、日々の水やり等で変化に気付きやすく、一つの苗から多く収穫出来るのでオクラを選び栽培する。育てたオクラを自分たちで収穫し調理することで、野菜が苦手な子も食べ物に興味をもてるのではないかと考えた。



##### (2) 保育のねらい

- ① オクラの世話を通して親しみや愛着が湧き生長の喜びを味わう。
- ② 自分たちで収穫したオクラを使い調理する楽しさと食べる喜びを味わう。

##### (3) 検証のねらい

- ① オクラの種まき、水やり、草抜き等の世話を通してオクラに愛着を持たせる。
- ② 調理することを楽しむことができるような環境構成や援助の工夫をする。
- ③ 自ら収穫したオクラを調理することで食べる喜びを味わわせる。

検証のねらい	幼児の姿	○環境構成 ★援助の工夫	検証結果
5月～7月 オクラの種まき、水やり、草抜き等の世話を通してオクラに愛着を持たせる。	<p>・「オクラの葉っぱはチクチクするね」「いっぱいお水飲んでね」「黄色いお花が咲いたよ。オクラの実はどこにできる？」と不思議に思ったりする姿が見られる。</p> <p>・「昨日までベイベーだったのにオクラボーイになっている」など野菜の生長の喜びを味わっている。</p> 	<p>○オクラの生長に気づかせるために、支柱を立てビニールテープで印をつける。</p> <p>★「オクラの赤ちゃんは大きくなるのが早いね」と幼児と共に野菜の生長を喜ぶ。</p>  <p>★「すごい！もうオクラボーイになっているの？」と発見の喜びや感動を共有する。</p> <p>○収穫したオクラを小さい順に並べ、大きさ比べをしたり触れたりしてオクラの感触を楽しませる。</p>	<p>・幼児と共に種を蒔き、野菜の生長を楽しみながら世話をすることで野菜に愛着が湧き興味関心を持つことができた。</p> 
7月19日(火) 収穫の喜びと調理への期待を持つ。	<p>・「昨日より大きくなっているね」とオクラの生長を友だちと喜ぶ姿が見られる。</p> <p>・「今日もたくさんとれたね」と収穫の喜びを味わう姿が見られる。</p> <p>・「昨日持って帰ったオクラは天ぷらにして食べたよ、おいしかった」「僕の弁当にオクラが入っているよ」と家庭での様子を喜んで話している。</p> <p>・「今日取れたオクラは幼稚園で食べたい」と期待する姿が見られる。</p>	<p>★「オクラボーイを探してみても、今日は何本採れるかな？」と幼児が進んで収穫したい気持ちを持たせる。</p> <p>○幼児が自分たちで収穫できるようにカゴやビニール等を準備しておく。</p> <p>★収穫したオクラを帰りの会で紹介し「明日は何本採れるかな」と期待を持たせる。</p> <p>○オクラの絵本を幼児の見やすい所に提示して関心が高まるようにする。</p> <p>★幼稚園で栽培したオクラを家庭に持たせ「どんな風にして食べたか教えて下さいね」と伝え、親子で調理する喜びを味わわせる。</p>	 <p>・収穫したオクラを持ち帰ることで収穫の喜びと調理への意欲が湧いてきた。</p>

<p>7月21日(木) 教師や友だちと調理し、食べる喜びや楽しさを味わう。</p>	<p>・「やった！今日は幼稚園でも食べられる嬉しいな」と自分たちで調理することに期待をもつ姿が見られる。</p> <p>・「畑ではピンってしていたけど、茹でたらフニャフニャになっている。おもしろいね」と興味を示す。</p> <p>・「家でもこんなして食べたよ」</p> <p>・「オクラはネバネバしていて柔らかくなって食べやすかった」と友だちと喜んで食べる姿が見られる。</p>	<p>○調理することを楽しむことができるように幼児と共に切ったり茹でたりする。</p> <p>★「茹でる前と後ってオクラが変わったことに気づいた？」「ネバネバいっぱいあるね」とオクラの変化に気づかせる。</p>  <p>★「冷蔵庫に入れて置くともっとおいしくなるよ。」「お弁当の時に食べようね」と食べることへの期待を持たせる。</p>	<p>・家庭で食べたことや弁当のおかずに入ることと食べることへの意欲が湧いた。</p>  <p>・普段オクラを口にしない子が、友だちの食べているのを見て「僕も食べてみようかな」「自分でとったオクラを食べてみたい」と食べる意欲が見られた。</p>
<p>考察及び改善点</p>	<p>①種まき、水やり、雑草取り等、幼児主体に行ったことでオクラに愛情が湧き、収穫や食べることへの期待が高まったと考える。</p> <p>②収穫や調理をすることに対して、興味を示さなかった子もいたので、一人一人に合った援助や環境構成の見直しが必要である。</p>		

やわらかくておいしいね



切ったらネバネバしてきたね

★「冷蔵庫に入れて置くともっとおいしくなるよ。」「お弁当の時に食べようね」と食べることへの期待を持たせる。

## 2 検証保育（2回目 9月）「地域の人と一緒にシークワサー収穫体験とゼリー作り」

### (1) 設定理由

島でよく見かけるシークワサーを、幼児が自分たちで収穫する体験を保育の中に取り入れたことはなかったが、食べ物へ興味を持たせるために実際に自分たちで収穫する。そこで、地域の人と一緒に収穫をして調理をし、教師や友だちと食べる体験をする事で楽しさや喜びを感じられると考えた。


### (2) 保育のねらい






- ① 自分たちで収穫する喜びとみんなで調理する楽しさを味わう。
- ② 教師や友だちと一緒にゼリーを作り、食べる楽しさを味わう。

### (3) 検証のねらい

- ① 収穫体験を通して地域の食材に興味や関心を持たせるための環境構成や援助の工夫をする。
- ② 教師や友だちと喜んで調理し、楽しく食べるための環境構成と援助の工夫をする。

### (4) 検証の流れ

検証のねらい	幼児の姿	○環境構成 ★援助の工夫	検証結果
<p>9月5日(月)</p> <p>・自分たちで収穫をする事で身近な食材に興味や関心を持つ</p> <p>・収穫の喜びを味わう。</p>	<p>・「シークワサーがいっぱいついてるね」「ジュースは飲んだことあるよ」</p> <p>・「まだ青いけど食べられるのかな？」と興味を示す。</p> <p>・「シークワサーって高いところにあるね」「引っ張ってもとれないな」「抱っこしてもらったから上手にとれたよ」と収穫を喜ぶ。</p>	<p>○散歩の時に実っているシークワサーの木に気づかせ、収穫への期待を持たせる。</p> <p>★幼児と共に収穫の喜びを共有する</p> <p>○子ども達から地域の人へシークワサーについて質問タイムを設け更に興味や関心を高める。</p> 	<p>・自分たちで収穫したことで興味や関心が高まった。</p> <p>・「どんな料理にしたらいい？」など地域の人に質問し収穫の喜びを味わった。</p>

<p>9月6日(火)</p> <p>・シークワサーに触れ匂いを嗅いだり食べたりすること で、調理への意欲を持つ。</p>	<p>・「たくさん取れたね、固いけど、どんな味がするのかな?」「いいにおいがするね」「葉っぱもみかんと同じにおいだね」とシークワサーのにおいをかいだり数える姿が見られた。</p> <p>・「ジュースにしたい」「ゼリーがいい」「唐揚げにかけて食べたい」と調理することへの関心が高まった。</p> <p>・「すっぱい」「いつも食べてる味と違う」「甘くない」と顔をしかめながらも「みかんの仲間だから大丈夫」と喜んで食べる姿が見られる。</p> 	<p>○たくさん収穫した喜びが味わえるように10個ずつ分けられるよう小分けの箱(牛乳パック)を用意する。</p> <p>★「80個もあるね、どうやって食べようか」と調理方法を幼児と共に考える。</p>  <p>たくさんあるから いろいろ作ってみたいな</p> <p>★「どう?どんな味がする?」と生のシークワサー食べた感想を聞き、甘さ調整等をしていない素の味を感じてもらう。</p> <p>すっぱいけど おいしいね</p>	<p>シークワサーの酸味だけでなく香りや皮の苦さも五感で感じていた。</p> <p>ワクワクしながら食べる方法を考える幼児の姿が見られた。</p>
<p>9月7日(水)</p> <p>・「小さな種がいっぱいあるね」「中はきれいな黄色なんだ、すごいな〜」「切ったらいい匂いがするね」「早く食べたいな」と食べてみたい意欲が見られる。</p> <p>ぎゅっと絞ってね</p> 	<p>○ゼリー作りへの興味が高まるように事前にゼリー作りの手順を掲示しておく。</p> <p>★「ほんとはね、切ったらいい香りがするね」と幼児の思いに共感する。</p> <p>ちゃんと固まるかな〜</p> 	<p>手作りゼリーが出来た喜びと、協力して作ったことで「みんなで作って食べると美味しい」と感じる事ができた。</p> 	
<p>考察及び改善点</p>	<p>幼児は直接見たり、触れたりすることで食材に興味や関心を持つことが分かった。そのことから、身近な食べ物に、五感を使って関わるようにする。</p>		

### 3 検証保育(3回目 6月~11月)「稲刈り体験からおにぎり作りへ」・「おにぎり作り体験から劇遊びへ」

#### ○ 「稲刈り体験からおにぎり作りへ」

##### (1) 設定理由

6月、田んぼまで散歩に出かけ、稲穂を見たり触れたりすることで幼児が興味を持ち始めた。「このお米、どうやってご飯になるのかなあ」と不思議そうにしていた。そこで、毎日食べているごはんに興味や関心を持たせたいと考え、地域の人と一緒に稲刈り体験とおにぎり作りを設定した。

##### (2) 保育のねらい

- ① 稲の生長に触れることで毎日食べているご飯への関心を持たせる。
- ② 稲刈り体験を通して収穫の喜びや調理する楽しさを味わう。
- ③ 炊いたご飯を自分で握りみんなと一緒に食べる楽しさを味わう。

##### (3) 検証のねらい

- ① 地域の人と一緒に稲刈りをし、収穫の喜びと調理する喜びを味わうための環境構成と援助の工



夫をする

② 稲刈り体験や調理体験を通して食べる意欲を高める環境構成や援助の工夫をする。

(4) 検証の流れ

検証のねらい	幼児の姿	○環境構成 ★援助の工夫	検証結果
<p>6月22日～ 6月28日</p> <p>地域の人と一緒に稲刈りをして島米に興味や関心を持つ。</p> <p>自分の力で収穫した喜びと満足感を味わう。</p>	<p>「稲刈りする日はまだかな」と稲刈り体験を楽しみにしている。</p> <p>・「お米がこんにちにはしているよ」「葉っぱと思ったら(先に)お米がいっぱいあるね」「お米は洋服(殻)で守られているんだね」と、稲穂に興味を示している。</p>  <p>これがお米?</p>	<p>★稲の生長がどうなっているか時々見に行くことで稲穂の変化に気づかせる。</p> <p>○絵本や紙芝居を通して稲やお米、田んぼ等に興味や関心を持たせ、意欲を高める。</p> <p>○観察から収穫体験までの田んぼの様子を写真等で掲示することによって興味や関心を持たせる。</p>  <p>黄色いじゅうたん みたいだね</p>	<p>・田んぼの様子を見に行くことで、給食や弁当の時に「また田んぼに行ってみよう」「稲刈りまだかな」と稲刈りを期待する姿が見られた。</p>  <p>たくさんとるぞ</p> <p>・「稲刈り楽しかったね」と喜びを感じる事ができた。</p>
<p>6月30日(木)</p> <p>島米を炊いておにぎりを握りみんなと一緒に食べる楽しさを味わう。</p> <p>おにぎり作り楽しいね</p> 	<p>・炊飯中や炊きあがったご飯の香りに「ご飯の香りだ」「おいしそうだね」と期待が膨らんでいる。</p> <p>・自分で握ることで「早く食べた」と食べる意欲が見られた。</p> <p>・「ご飯っていい匂いだね」「三角にするのって難しいね」「田んぼのお米がご飯に変身!」と友だちと楽しみながら握る姿が見られる。「どっちが大きいかな」「自分で握ったおにぎり最高!」とおにぎりを見比べて楽しく食べる姿が見られる。</p>  <p>早く食べたいな～</p>	<p>○炊飯の様子を見せたり炊きたてのご飯の香りを嗅いだりすることで食べる意欲を高める。</p> <p>★自分たちで収穫したお米は「どんな味がするのかな」等の言葉かけをして期待を持たせる。</p>  <p>○自分で握ったおにぎりの味の感想等を友だちと話しながら和やかな雰囲気の中で食べられるような場の設定をする。</p> <p>★「自分で作ったおにぎりはおいしいね」「上手に握れたね」と褒めて喜びを味わわせる。</p>  <p>あったかくておいしいな</p>	<p>・炊きあがったご飯の香りや熱さなどを五感で感じる体験ができた。</p> <p>・自分でおにぎりを握った満足感からみんなで一緒に食べる喜びや楽しさを味わっていた。</p> <p>・「〇〇さんのおにぎり大きいね。」と比べながら喜んで食べる姿が見られ、帰りの会でも「自分で作ったおにぎりおいしかったです」と喜びを表していた。</p>
<p>考察及び改善点</p>	<p>①稲刈り体験からおにぎり作りをするなかで、目で見たり、味を味わわせたり、匂いを嗅いだりして五感を働かせて関わったことで、身近な島米へ興味をもつことができたと考え。</p> <p>②食育を計画的に保育の中に取り入れ、身近な食べ物への興味や関心を持たせていく。</p>		

○ 「おにぎり作り体験から劇遊びへ」

(1) 設定理由

稲刈り体験とおにぎり作りを通して昔話絵本「おむすびころりん」に興味を持ち始めた。遊びを広げ、身近な食べ物への興味や関心を持たせるために「おむすびころりん」の劇遊びを幼児と一緒に作っていく。





(2) 保育のねらい

- ① おにぎり作りから展開した劇作りを楽しむ。
- ② 歌を歌ったり登場人物になりきったりして劇遊びを楽しむ。

(3) 検証のねらい

- ① 劇遊びを通して身近な食べ物への興味や関心を持たせるための環境構成と援助の工夫をする。

検証のねらい	幼児の姿	○環境構成 ★援助の工夫	検証結果
9月～11月 劇作りをした り劇遊びを楽 しむことを通 して身近な食 べ物に興味や 関心を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ウサギさんも仲間に入れたら 楽しくなるね」「じゃあニンジン が入ったおにぎりがあるとい いね」などと教師や友だちと劇作り を楽しんでいる。</li> <li>・「おむすびころりんすつとんと ん」とおにぎりを転がしたり劇遊 びの歌やセリフ等を楽しむ姿が 見られる。</li> <li>・自分たちから進んで劇遊びを楽 しんでいる姿が見られた。また弁 当の時間に「おむすびころりんす つとんとん」とおにぎりを喜んで 食べる姿が見られた。</li> </ul>	<p>○幼児と一緒に新聞でおにぎりを作り自分たち で遊べるようにする。</p> <p>○楽しんで遊べるように劇遊びコーナーとして ステージやラジカセを準備する。</p> <p>★おむすびころりんの絵本を読み聞かせしたり、 幼児と一緒に台詞を作ったりする。</p> <div style="text-align: center;">  </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稲刈り体験からおにぎり作 り、さらに「おむすびころり ん」の劇遊びへと発展し、園 生活に活気が生まれた。</li> <li>・おにぎり作りから発展した 「おむすびころりん」の劇遊 びを楽しむことを通して、身 近な食べ物へ興味や関心を 持つことができた。</li> </ul> <div style="text-align: right;">  </div>
考察及び 改善点	劇遊びから食べ物や食べることに関心が向かない幼児がいたのは、個に応じた細やかな援助が足りなかつたと考え。4歳児への援助の工夫をする。		

4 検証保育（4回目 11月 本時） 「おもち作りをしよう」

(1) 設定理由

「おむすびころりん」の劇遊びを楽しんだ幼児から「ねずみが作ったおもちはおむすびからできたけど、どんな味がするのかな？」「ほんとおむすびからできるのかな？」「ぺったんこして作ってみたいね」など、ねずみがおもちをつく場面から、おもちを作りたいと興味を示した。

そこで、4歳児に配慮しながら幼児と一緒におもちを作る計画を立て実践する。

(2) 保育のねらい

教師や友だちと期待を持っておもちを作り、一緒に食べる喜びや楽しさを味わう。

(3) 検証のねらい

おもち作りへの興味や関心を高め、幼児が食べる喜びや楽しさを味わうための環境構成と援助の工夫をする。

(4) 環境構成と援助の工夫

- ① 幼児の見やすい場所にテーブルを並べ、作り方等を貼り出しておく。
- ② おむすびころりんの劇遊びを思い出し、楽しくおもちつきができるように「どんな味のおもちができるかな」と言葉をかけ期待をさせたり、必要に応じて援助をする。
- ③ 食べる喜びや楽しさを味わわせるための場の工夫をする。
- ④ 4歳児と5歳児混合のグループを編成し、4歳児も喜んでおもち作りができるように援助する。

(6) 検証保育(本時)の展開

本時の日案

平成 28 年 11 月 16 日 (水)		渡嘉敷村立渡嘉敷幼稚園 4 才児 5 名 5 才児 10 名 計 15 名	
幼児の姿	地域の人と一緒に稲刈り体験を行った。米の実っている様子や収穫する楽しさを味わったことをきっかけに、ご飯に興味を持ち始めた。島米を炊いておにぎりを自分でにぎり食べた喜びから、劇遊びへと活動が広がった。「おむすびころりん」の劇遊びに取り組み中でネズミがおもちをつく場面から「私達もおもちを作りたい」と声があがった。	ねらい	◎教師や友だちと期待を持っておもちを作り、一緒に食べる喜びや楽しさを味わう。
		内容	△おもち作りに興味や関心を持ちながら友だちと協力して作る。 △教師や友だちと喜んで食べる。
予想される幼児の活動	○環境構成	★教師の援助	教育要領の視点
<p>8:00</p> <p>○順次登園する。</p> <p>・お手ふき等を所定の場所に出す。</p> <p>・栽培物への水やり</p> <p>8:30</p> <p>○朝の会に参加する。</p> <p>・料理の準備をする。</p> <p>○調理の身支度をする。</p> <p>・三角巾・エプロンを着る</p> <p>・手をきれいに洗う。</p> <p>9:00</p> <p>○友だちと協力しておもち作りをする。</p> <p>○楽しく食事をする場作りをする。</p> <p>○喜んでおもちを食べる。</p> <p>10:15</p> <p>○使った食器等を片付ける。</p> <p>10:20</p> <p>○話し合いをする。</p> <p>・活動の振り返り</p>	<p>○幼児と前日準備していたもち米を炊く。</p> <p>★一人一人を笑顔で迎え入れながら、健康観察を行う。</p> <p>★5歳児は丁寧に所定の場所に出しているか、4歳児は自分でできているか確認をする。</p> <p>★野菜や花の生長と一緒に楽しみながら水やりをする。</p> <p>○幼児の見やすい場所にテーブルを並べ、作り方等を貼り出しておく。</p> <p>★活動の注意点などを話し合った後、グループごとにテーブル、調理器具の準備ができるよう促す。</p> <p>★おもち作りに期待が持てるよう、調理の見本を見せ、グループで協力して料理ができるようにする。</p> <p>★4歳児と5歳児混合のグループ編成にし助け合いができるようにする。</p> <p>★グループを見回りながら、調理器具の使い方の確認、安全等に配慮し、必要に応じて援助する。</p> <p>★「どれくらいペタンしたらおもちになるかな」と言葉をかけ、友だち同士協力し合いながら料理ができるようにする。</p> <p>★「おむすびころりん」の劇遊びを思い出し、楽しくおもちつきができるように「一人ではできないね」「グループの友だちと力を合わせようね」と言葉をかけ、協力して調理できるようにする。</p> <p>★食べる喜びが味わえるよう、食事の場作りを幼児と共に考える。(テーブルクロスや花などを飾る)</p> <p>★栗、にんじんシリシリ、まぐろ佃煮など劇遊びに登場した具材を用意しておき、活動の流れを見ながら「おいしい味のお手伝い」があること知らせる。</p> <p>★「おむすびころりん」の劇遊びを思い出しながら、おもちを食べる喜びを味わわせる。</p> <p>○劇遊びの様子を写真パネルにして掲示しておく。</p> <p>★グループの友だちと協力して片づけができるようにする。</p> <p>★調理の感想や作ったおもちの味はどうかなど思いを聞いたり、伝え合ったりする楽しさが感じられるようにする。明日の遊びに期待を持たせる。</p>	<p>→ 健康内容(1)</p> <p>→ 健康内容(8)</p> <p>人間関係内容(3)</p> <p>→ 言葉内容(4)</p> <p>人間関係内容(8)</p> <p>→ 環境内容(6)</p> <p>人間関係内容(8)</p> <p>→ 言葉内容(2)(3)(4)</p> <p>表現内容(3)(8)</p> <p>→ 健康内容(4)</p> <p>人間関係内容(7)(8)</p> <p>→ 環境内容(5)</p> <p>→ 人間関係内容(7)</p> <p>→ 言葉内容(3)</p>	
評価		<p>・友だちと協力しながら楽しく調理をすることができたか</p> <p>・自分たちで作ったおもちを喜んで食べるすることができたか</p> <p>・和やかな場の雰囲気作りができたか。</p>	

検証のねらい	幼児の姿	○環境構成 ★援助の工夫	検証結果
<p>11月16日(水) 教師や友だちと期待を持っておもちを作り、食べる喜びや楽しさを味わう。</p> <p>手伝ってあげるね。</p> <p>「もっとトントンして」「一人何回つく？」と幼児が教え合い協力しながらおもち作りをする姿が見られる。</p> <p>ぺったんこ ぺったんこ</p> <p>「やわらかくなった？」と隣の進み具合を見たり、困っているグループにはアドバイスをするなど幼児同士で助け合う場面が見られる。</p> <p>「だんだんおもちみたいになってきた！」「ねずみさんはこうして作ったのかな」と段々ともちになる不思議さと喜びを感じている。</p> <p>「ぺったんこぺったんこ」と歌いながらおもちつきを楽しむ姿が見られる。</p> <p>「ねずみさんのおもち大成功！」「ほんとにおもちになったね」と喜ぶ姿が見られる。</p> <p>おいしいね</p>	<p>・「先生今日はおもちつきだね、待ちきれなかったよ〜」「ねずみのおもちつき始まるね」「ご飯のいい匂いがしてきたよ、楽しみだね」などおもち作りを期待している姿が見られた。</p> <p>・「エプロン着せてあげるね」と4歳児の着替えを手伝う姿が見られる。</p>  <p>・「もっとトントンして」「一人何回つく？」と幼児が教え合い協力しながらおもち作りをする姿が見られる。</p>  <p>・「やわらかくなった？」と隣の進み具合を見たり、困っているグループにはアドバイスをするなど幼児同士で助け合う場面が見られる。</p> <p>・「だんだんおもちみたいになってきた！」「ねずみさんはこうして作ったのかな」と段々ともちになる不思議さと喜びを感じている。</p> <p>・「ぺったんこぺったんこ」と歌いながらおもちつきを楽しむ姿が見られる。</p> <p>・「ねずみさんのおもち大成功！」「ほんとにおもちになったね」と喜ぶ姿が見られる。</p> 	<p>○隣のグループの様子が見えるように机を配置する。</p> <p>★助け合いができるよう4歳児と5歳児混合のグループ編成をする。</p> <p>★おもち作りが出来るよう幼児と共に道具等を準備し期待感を持たせる。</p> <p>★幼児の前で炊飯を始め、香りがすることで「作りたい」という気持ちを持たせる。</p> <p>★「今日はみんながねずみさんになって美味しいおもちを作ってね。楽しみだね」等の言葉かけをして期待を持たせる。</p>  <p>★「ネバネバしてきたね、不思議だね、隣のグループはどうなっているかな？」と見比べることでおもちの出来上がる様子に気づかせる。</p>  <p>手についちゃった！味見してみよう。</p> <p>○幼児と共にテーブルクロスを敷き、園庭の花を飾り、楽しい雰囲気作りをする。</p> <p>★「ねずみさんと同じおもちが出来てよかったね」「おいしい？」と喜びを共感する。</p> <p>レストランで食べてみたい</p>	<p>・隣のグループのおもちの進み具合を見たり、困っているグループにはアドバイスをするなど幼児同士で助け合う姿が見られた。</p> <p>・先生や友だちと一緒に協力し合っ作する姿が見られた。</p> <p>・劇遊びで歌ったネズミの歌を歌いながらおもちをつく姿が見られ、みんなで作る楽しさを味わう事が出来た。</p> <p>・みんなと一緒に食べると楽しいという気持ちを味わうことが出来た。</p> <p>・自分たちでテーブルクロスや花をセッティングし、レストランの雰囲気を楽しんでいった。</p>
<p>検証結果の分析</p>	<p>① テーブルクロスを敷き、園庭の花を飾り、楽しい雰囲気作りをすることで、友だちと一緒に食べる楽しさや喜びを感じることができたと考える。</p> <p>② 劇遊びからおもちを作りたいという幼児の思いをくみ取り、教師や友だちと一緒に調理をする喜びを味わわせることで、食べ物への興味や関心を持つことができたと考えられる。</p> <p>③ 4歳児と5歳児混合のグループ編成をすることで助け合う姿が見られ、4歳児も喜んで調理をすることができたと考える。</p>		

## VII 研究の成果と課題

### 1 研究の成果

- (1) 栽培活動を通して、日々世話をするなかで野菜に愛着が湧き、生長の喜びや収穫の喜びを味わわせることができた。
- (2) 地域の人と一緒に、シークワサーの収穫や稲刈り体験等をしたことで、身近な食材に興味や関心を持たせることができた。
- (3) 日々の保育の中に食育を計画的に取り入れ、教師や友だちと共に調理をしたことで、みんなと一緒に作る喜びと食べる喜びを味わわせることができた。
- (4) 稲刈り体験からおにぎり作り、おにぎり作りから劇あそび、劇遊びからおもち作りへと一環した保育と食育の展開及び環境構成の工夫により、食材に対する興味や関心を高め、食べる喜びや楽しさにつながった。

### 2 今後の課題

- (1) 栽培活動に興味関心を示さなかった幼児への細やかな援助のあり方と環境構成の工夫を図る。
- (2) 混合保育における4歳児からの継続した食育と栽培活動計画の見直しを図る。
- (3) 今後も家庭と連携しながら取組み等の充実を図る。



#### 〈主な参考文献〉

厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課長

『楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針～』

2004年

広木克行 著 『乳幼児期は、五感と身体を育てる時代』

2006年

文部科学省 『幼稚園教育要領解説』

フレーベル 2008年

無藤 隆・柴崎正行 編

『新幼稚園教育要領・新保育所保育指針のすべて』

ミネルヴァ書房 2009年

沖縄県教育委員会 『平成21年度文部科学省指定 幼児教育の改善・充実調査研究報告書

幼稚園における食育に関する調査研究』

2009年